

9:00 資料をもとに競技規定の確認

第9条 サービス

- ・ サービスの遅延→サービスの始まりを本当に遅らせる→フォルト
- ・ サービスの足→浮く、滑らず→フォルト（シャトルを打ってから後ろ足が浮くのはOK）
- ・ サービスはラケットが前方に動き始めてからが始まりで、一度でも動きが止まればフォルト。
- ・ サービスを遅らせるのはフォルトだが、早いのはOK。
- ・ サービスをする時シャトルを落としてしまう→ラケットが前方に動き始めていたら空振りもフォルト。
- ・ 主審がサーブのフォルトを見る為にサーバーを凝視するのは、プレッシャーをかけるのでNG。さらっと見る。
- ・ アバブ・ザ・ウエストは、肘を曲げたライン（肋骨）で判断。サーブを打つ瞬間、シャトルがラインの下であること。また、ラケットヘッドとシャフトは必ず下向き。高い位置や、ラケットヘッドが真横もしくは上向きはフォルト。

【質問】 サービスの度にペアが話をする。→遅延行為としてフォルトにできる。

レシーバーが手をかざし、サーブを止める。→頻繁にするようであれば注意。

サーブのタイミングが早すぎる。→反応しなければレット（足やラケットを動かすとレットにならない）

第13条 フォルト

- ・ オーバーザネットは、プッシュした時のシャトルの位置で決まる。ヘアピンをプッシュで空振りした時は、オーバーザネットしやすいので、よく見る事。

【質問】 ネット下のラインを踏む→著しく踏んでなければOK。

相手コートにラケットが入る→相手の注意をそらす行為でフォルト。

ヘアピンからのプッシュに対して→ラケットを前に出して受けるとフォルト。

（顔を隠した場合はフォルトにならない。）

第14条 レット

- ・ サーブに対してレシーバーが反応していなかったらレット。
- ・ プレー中にシャトルが分解した場合はレット。
- ・ コーチによるプレーの中断。大きな声での注意や指導は相手を委縮させる為注意する。コーチに対してはフォルトではなくレット。（フォルトは選手のみ）
- ・ 観客に対してもレット。（イン・アウトを教える）

第16条 プレーの継続、不品行な振舞い、罰則

- ・ 線審にクレームは即イエローカード（「エ～」と言う声でも）
- ・ インプレー中ガットが切れてラケットをさっと取り替えるのはOK。
- ・ 選手の携帯電話が鳴るとイエローカード。
- ・ コーチの携帯電話が鳴り、選手の注意がそれたらレット。
- ・ 体力の回復を目的とするような行為はプレーの遅延になる。
- ・ 靴ひもを結び直す時は、主審に許可を得る。
- ・ ラケットを交換する時も主審に許可を得る。

【質問】 相手を威嚇するような掛け声態度→警告

公認審判員規程 第3条 主審への助言

- ・ インターバルを取り忘れたら→そのまま休まず試合を継続。

- ・マッチ中の怪我や病気→インターバル中ならテーピングはOK。
足の痙攣のスプレーと怪我の絆創膏は本人がするのみOK。足の痙攣でのプレーの中断は認めないので直ぐに試合を継続、プレーに入らなければ警告し、フォルトにする。
- ・インターバル後コートに入っていない場合は、ラブオールの後フォルトにする。
- ・審判は試合終了まで審判台から降りてはいけない。プレーが中断した時は即ストップウォッチを押しておく。問題が起きたらレフェリーを呼び、対処してもらう。
- ・試合終了はジャッジペーパーに勝者サインと主審サインを忘れず記入。(不明な点が出た時の確認する為)

第4条 線審への助言

- ・線審は「イン」「アウト」の判断のみで、ワンタッチの判断はしない。

10:40 実技を交えてルール説明

- ・サービスラインのジャッジを主審が言う時は、「イン」「アウト」の言葉のみ。
- ・主審はトス後サービス、エンドの選択を促してから各ペアのファーストを確認する。
- ・サービスラインを踏む人が多いので気をつける。踏めばフォルト。
- ・線審は選手でラインが見えなくなりそうな時は、体をずらして見る。
- ・他コートから入ってきたシャトルは、主審が気づけばレット。勝手にプレーを中断しない。選手が勝手にコート外に出したら、そのままゲームを続行する。
- ・インターバル「20秒」コールしたら、選手にはコートに入ってもらおう。
その時ストップウォッチはリセットしておくが良い。
- ・シャトルの交換は羽の状態を見て判断し交換する。羽を整える、肘で広げるなどの行為は警告。
- ・各ゲームごとにファーストサーバーは変わって良い。主審はゲームの始まりにはよく確認すること。
- ・ミスジャッジの多い線審に対して、主審がミスだと認めたジャッジには「コレクション」を使う。ミスが続くならレフェリーを呼ぶ。この時も主審は審判台から降りない。
- ・ライン付近のジャッジは、羽でもコルクでも最初に着いた所で判断する。

【その他 質問】

- ・県大会の昇級について 8チーム以上参加での優勝は昇級
7チーム以下での優勝は、優勝者の判断で決める。

受講者の感想

審判の奥深さに驚いた。

もっと実技を交えての説明の時間を増やして欲しかった。

審判への意識が高まった。

まとめ

43名の参加で、松本先生の丁寧な説明に時間が足りない感じでした。

バドミントンを続けていく上で、審判は必ず関わってきます。選手が気持ち良い試合をする為にも自覚をもって審判をしましょう。

定期的に勉強会を行い、審判への意識と自信を持たりたいと思います。